

足羽三山文化協議会主催 講演会 芸術文化は社会になぜ必要か

日時：2022年7月30日(土) 午後3時～午後4時半

場所：福井市おさごえ民家園 旧城地家住宅（民家園入場料110円が必要です）

講演要旨

これまで、芸術文化の力を信じ、それを公的に支える仕組みについて研究してきました。しかし、なぜ公的に支える必要があるのか、その考え方自体が、まだまだ共有されていないと感じています。また、公的に支えるには客観的な効果の説明が必要であるという社会状況が進む中で、ともすると芸術文化の多様性がそがれる危険性もあります。日本の文化政策は、この5年ほどで、芸術文化を経済や社会の発展に活かすという方向性が明確になってきました。そのことは、芸術文化の幅広い意義を示す点で望ましい側面もありますが、「短期的に役に立つ」芸術文化の支援に注力されるという危険性もはらんでいます。本当に長い目で文化を耕すことにつながっているのでしょうか。芸術文化が社会にとってどのような存在であるのか、それを支える仕組みはどういうものが望ましいのか、これまでの研究や実践の経験からお話しし、皆様とともに考えられたらと思います。



講師：朝倉 由希

福井市生まれ・福井市在住。京都大学文学部卒業後、民間企業勤務を経て、東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学博士後期課程修了。博士(学術)。アートマネジメント、文化政策を専門とする。2017年度より文化庁地域文化創生本部研究官として、主に文化予算の国際比較を担当。2021年度より公立小松大学国際文化交流学部准教授。共著に『文化で地域をデザインするー社会の課題と文化をつなぐ現場から』(学芸出版社、2020)等。文化庁文化創造アナリスト、(公財)福井県文化振興事業団芸術文化アドバイザー等も務める。

コロナ対策のため、人数制限(先着40名)をします。このため事前申し込みが必要です。

ono-km@beach.ocn.ne.jpあてに氏名・住所を記入したメールを7月27日までにお送り下さい。参加申し込みメールを送信後、まる1日経っても返信がないときには、アドレスを再確認して、再送信願います。それでも返信のないときには、下記の齋藤成也まで電話連絡をお願いします。

講演会の問合せ先：尾野和之 (ono-km@beach.ocn.ne.jp) または 齋藤成也 (電話 090-7312-8182)

足羽三山文化協議会とは：1967年に、故原子光生(2010年死去)が八幡山のふもとに時雨窯(しぐれがま)を開きました。原子が行っていた陶芸を中心とする幅広い文化活動を受け継ごうと、2008年に足羽三山文化協議会が発足しました。これまでの講演者：佐々木閑、故白崎昭一郎、齋藤文子、福井宇洋、佐川晃司、吉田純一、故谷口等、秋田利明、尾野和之、故滝口亨、長田俊樹、小熊斗志也、国京克巳、大井七世美、松田一夫、高嶋猛、古川登、高木裕美、齋藤成也、笠原善郎、齋藤せつな、中川伸二、佐々木日嘉里。